

1 教育課程の実戦に向けて

(1) 教育目標

人権尊重の精神を基本として、心身ともに健康で、知性と感性溢れる人間性豊かな生徒の育成し、グローバル社会で活躍できる人材育成を目指し、次の教育目標を設定する。

○深く考え自ら学ぶ生徒 (知)

◎思いやりのある心豊かな生徒(徳) 【重点】 自他にやさしく大切にする力

○健康でねばり強い生徒 (体)

(2)教育目標を達成するための基本方針

○「深く考え自ら学ぶ生徒」の育成

- ・ 授業規律を確立し主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、個に応じた指導を一層推進し、生徒一人一人の基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を図る。
- ・ 身につけた知識及び技能を自ら活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育む。
- ・ 各教科等の特性を踏まえ、単元や題材など内容のまとまりを見通しながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める。
- ・ 生徒・教師のICT活用力の向上を図り、生徒の学習活動の幅を広げ、学力向上につなげる。

◎「思いやりのある心豊かな生徒」の育成

- ・ 人権尊重の精神に基づき、全ての教育活動を通して、自他の生命の尊重、多様な他者への思いやりの心の育成、集団としての規範意識の醸成を進める。
- ・ 特別の教科道徳を基本とする道徳教育や体験活動、表現活動を通して、生徒の内面に根ざした道徳性を育成し、互いの人格を尊重し、思いやりや豊かな心を育成する。
- ・ いじめ総合対策を進めるため、組織や環境を整え、学校いじめ対策委員会を中心として、いじめに対する未然防止、早期発見、早期解決を図る。

○「健康でねばり強い生徒」の育成

- ・ 保健体育や家庭科、総合学習の時間を中心に、心と身体健康や生活環境に関心をもたせる。
- ・ 安全な行動や規律ある集団行動、様々な体験活動を通して、健康で安全な生活を送るためのねばり強い態度を育成する。

【目指す学校像】生徒が喜んで登校し、教職員が生き生きと勤務し、保護者・地域に愛される学校

- ・ 生徒の笑顔が溢れ、互いを尊重し、規律と潤いのある学校
- ・ 教職員が協同意識をもち、互いに磨き合い生き生きと働く学校
- ・ 保護者や地域から信頼され、安心して生徒を任せられる学校

【育てたい生徒像】生徒が主体的に活動し、生涯を創造することができる生徒

- ・主体的に授業や教育活動に取り組む生徒
- ・互いの良さを尊重し、自他に優しく、思いやりのある生徒
- ・自己肯定感・自己有用感が高い生徒
- ・規範意識をもち、さわやかな挨拶のできる生徒

【期待される教師像】生き生きと活動し、生徒一人ひとりに寄り添う教師

- ・深い専門性と自ら向上する意欲をもち、学び続ける教師
- ・生徒に寄り添い生徒の成長を支援できる教師
- ・組織の一員として学校運営に参画し、教職員・保護者・地域と互いに協力できる教師

2 中間的目標と方策

- ・教育課程の円滑な実践の中で適宜課題を検討し、その対応を迅速に行う体制を作る。
- ・生徒一人一台の Chromebook を活用した教育を実践する。
- ・自他に優しく、生徒が互いの良さを尊重し合える環境を作るとともに、いじめに対する未然防止、早期発見、解決を図るため、学校いじめ対策委員会を中心とした組織的な対応を進める。

3 今年度の重点目標と方策

50 周年を迎え、先人たちの残した文化や歴史を継承するとともに、未来に向けて新たな一歩を踏み出し、グローバル社会で活躍できる人材の育成をめざしていく。

○学校全体で思いを共有し、連続性を意識した学級・学年・分掌の経営を進める

- ・学校生活のあらゆる場面で生徒自身の自己肯定感・自己有用感の育成
- ・各学年、各分掌で仲間意識をもち、協同した指導の実践
- ・教育公務員としての意識を高め、危機管理の在り方や仕事の在り方の工夫改善
- ・各教室や学校全体での環境整備や教育活動への雰囲気づくり

○自他の生命の尊重と多様な他者への思いやりの心を育成し規範意識の醸成を進める

- ・自他に優しく、一人ひとりを大切にする生活指導の充実
- ・いじめ対策委員会の定例化の下、全教員による共通理解といじめ撲滅の強い意識
- ・SC 面談や QU アンケート、ハートフル面談、SOS の出し方など定期的な心のケアの実施

○生徒一人ひとりの基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させる方策を進める

- ・生徒一人ひとりが授業や家庭学習へ意欲的に取り組むための環境づくり
- ・学力調査等の結果分析及び、授業改善
- ・Chromebook 活用の実践や研修の実施
- ・教師の専門性の向上と指導力の向上

○生徒一人ひとりが自分の良さや可能性を認識できるよう自己肯定感・自己有用感を育む

- ・行事や委員会活動・部活動等を通し、自らを鍛え他者との協力を体感できる環境づくり
- ・自己を高め、その後の生活に生かせるような体験活動の実施
- ・生徒一人ひとりの教育ニーズに応じた特別支援教育の充実
- ・ポケットルームや不登校支援教員を活用した不登校生徒への積極的な対応